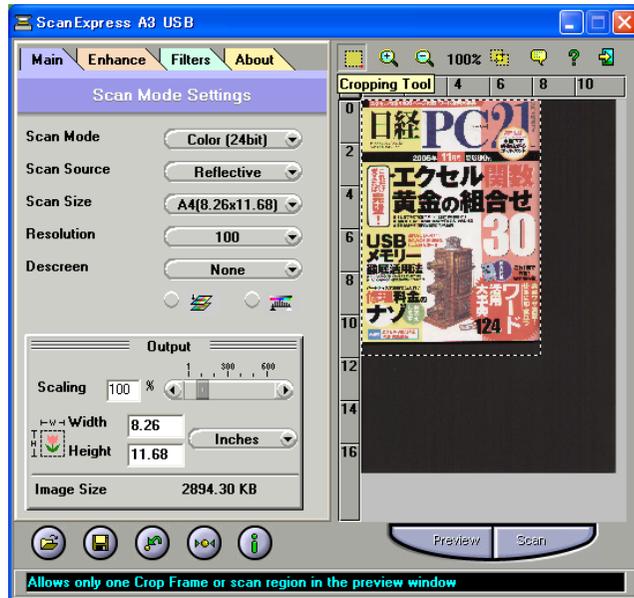


これは、スキヤナのTWAINドライバの設定を全く弄っていない状態のTWAINの画像です。



**ご注意！！**

全く同じ原稿を、全く同じスキヤナでスキヤニングしても、必ずしも毎回「全く同じ画像」が得られるわけではありません。

スキヤナのコンディションや、スキヤナが設置されている環境温度・湿度、周囲の明るさ等に影響します。

スキヤナの光源ランプの光量(寿命にも因ります)が微妙に変化するだけで、同じ原稿であっても、スキヤニングする度ごとに、スキヤニングした画像は「異なる雰囲気」を持つ画像となります。

また、スキヤナだけではなくスキヤナの画像を確認するパソコンのモニターによっても、全く同じ画像を見た場合「異なる雰囲気、異なるカラー」に見えます。

同じメーカーの同じ機種のパソコンモニターであっても、パソコンモニターの個体差の関係から同じ事が言えます。



スキヤニングした画像です。



デジカメで撮影した「オリジナルの雑誌」画像です。カメラは、Canon IXY 200a 200万画素 です。

スキヤニングに使用した原稿は、「日経BP社」様発行「日経PC21 2005年11月号」の表紙を使用いたしました。

これは、スキヤナのTWAINドライバのエンハンス(画像強化機能)機能を弄った場合のTWAINの画像です。「トーンカーブ」を弄って見ます。



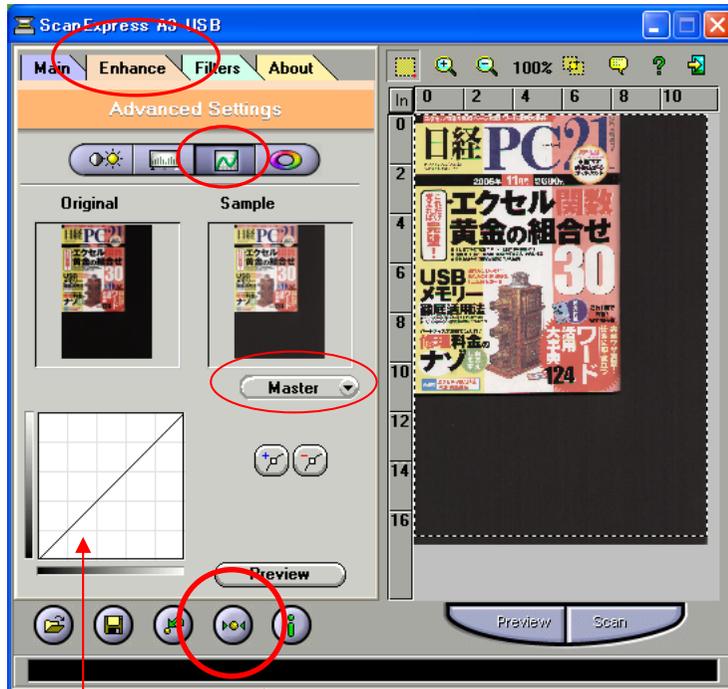
マスターチャンネルを弄って見ます。

TWAIN画面上の各設定箇所の説明は、エニスルの販売するスキヤナに添付しております「**エニスルオリジナル 日本語版オンラインヘルプ**」、そして「**エニスルオリジナル日本語版ユーザーガイド**」に記載してございます。



「色の抜けた画像」になります。画像が色褪せてスキヤニングされる場合、このトーンカーブを触れている場合が大変多いです。TWAIN画面の設定は、変更したままの状態が保存されてしまいますので、スキヤナを起動してスキヤニングを行うと、TWAIN設定の変更された状態が再び再現されてスキヤニングされます。

それでは、スキャナのTWAINドライバのエンハンス(画像強化機能)機能のトーンカーブを弄った状態を元に戻してみます。リセットボタンをクリックするだけです。



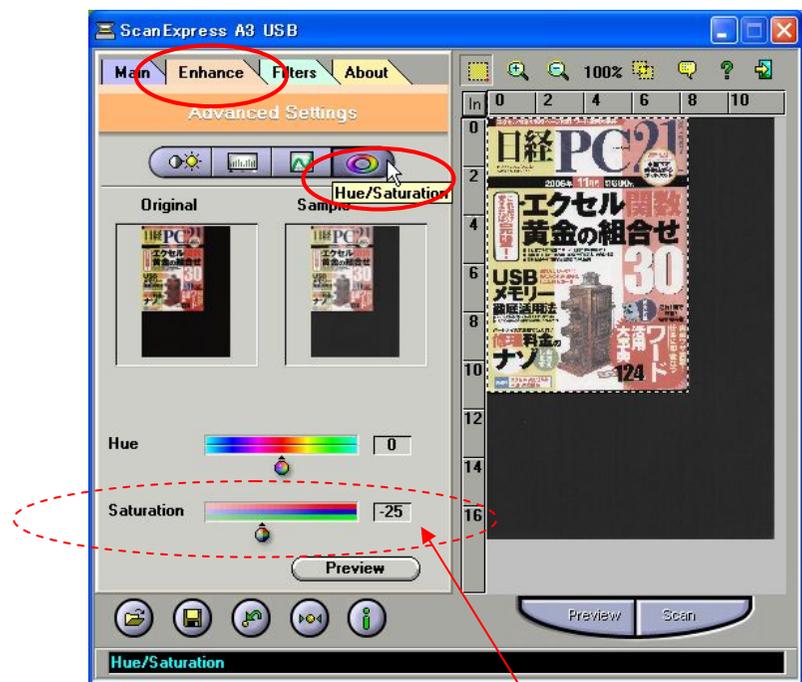
トーンカーブが対角線形状に戻ります。

リセットボタン



スキャニングして見ましょう。元の画質に戻ります。

Hue(色相)／Saturation(彩度)を弄っても、スキャンした画像は“色褪せ”ます。  
ここでは、Saturation(彩度)のレベルを下げて見ましょう。



彩度をマイナス値(-25)にして見ましょう。

TWAIN画面の設定は、エニスルの販売するスキャナに添付しております「**エニスルオリジナル日本語版ユーザーガイド**」に記載されております。

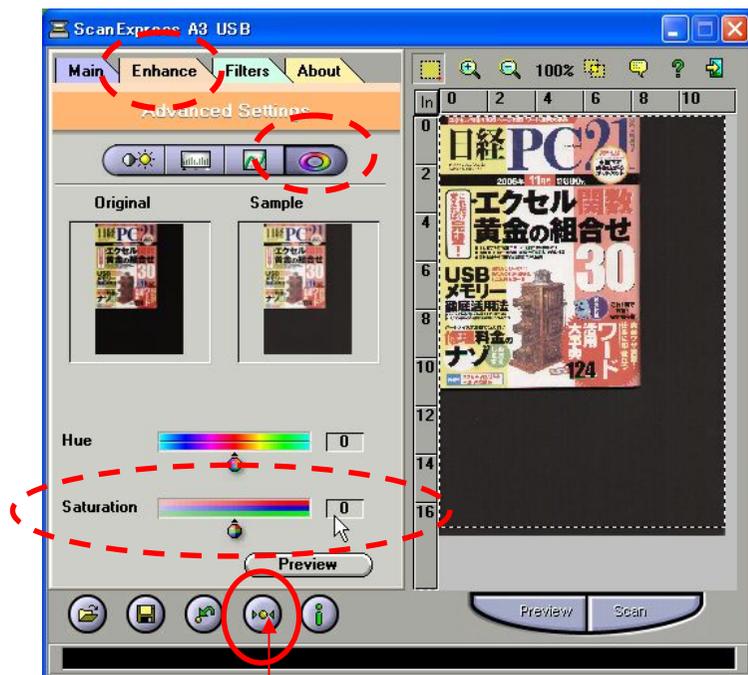


色褪せてスキャンがされてしまいます。



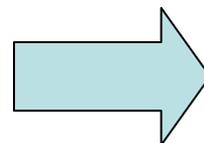
デジカメで撮影した「オリジナルの雑誌」画像です。カメラは、Canon IXY 200a 200万画素 です。

Hue(色相)／Saturation(彩度)を弄っても、設定を元に戻すのは“リセットボタン”をクリックするだけで、初期値に戻ります。



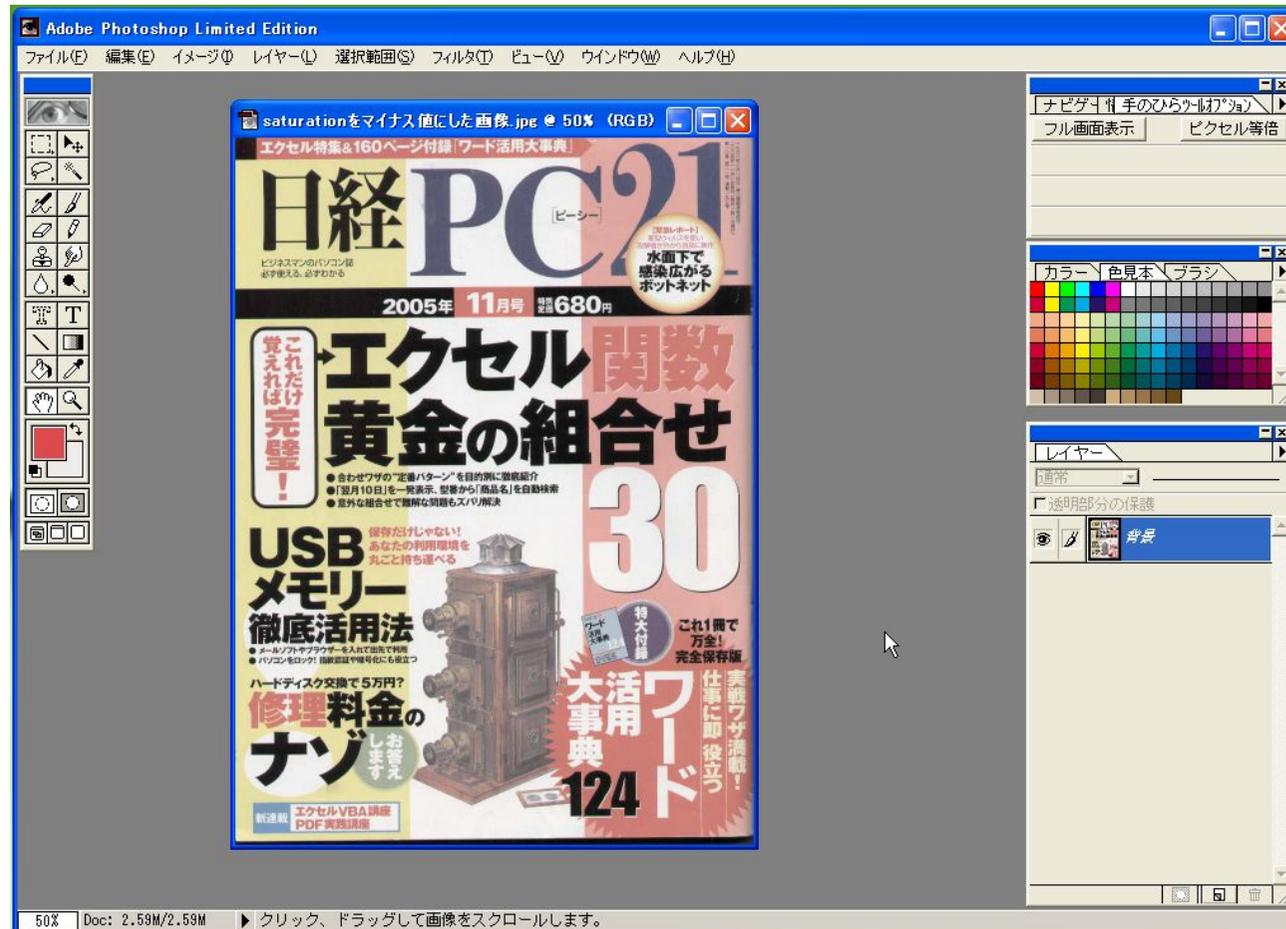
リセットボタン

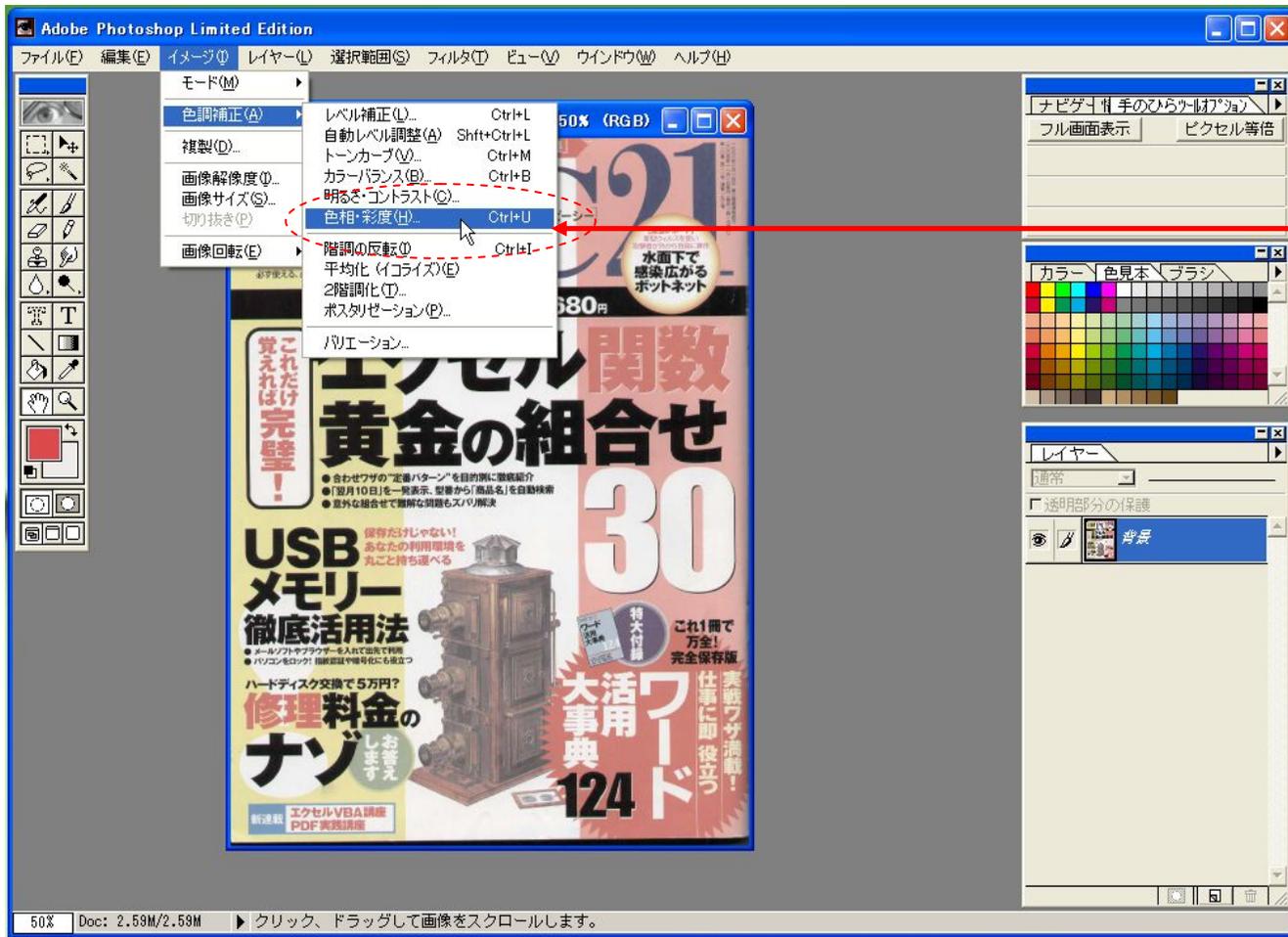
詳しくは、エニスルの販売するスキャナに添付しております「エニスルオリジナル日本語版ユーザーガイド」に記載されております。



スキャニングして見ましょう。元の画質に戻ります。

それでは、この彩度を弄って、スキヤニングしてしまった画像を元に、オリジナルの画質に近づけて見ましょう。  
使用するのは、**エニスルの販売するスキヤナに付属している「日本語版 Adobe Photoshop LE 5.0」**を使用します。  
まず、ソフトウェアを起動して、画像を呼び込みます。この時、画像は、JPEG形式か、BMP形式で保存されているものとします。  
もしGIF形式等で保存されている場合は、画像モードを「RGBカラー」にしてください。





色相・彩度を選択します。

彩度を変更したいチャンネルごとに設定を変えていきます。  
まず、RED(赤色)チャンネルを変更してみます。



REDを選択します。

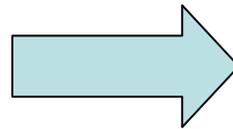


彩度を+35にしてみます。

彩度を変更したいチャンネルごとに設定を変えていきます。  
つぎは、YELLOW(黄色)チャンネルを変更してみます。



YELLOWを選択します。



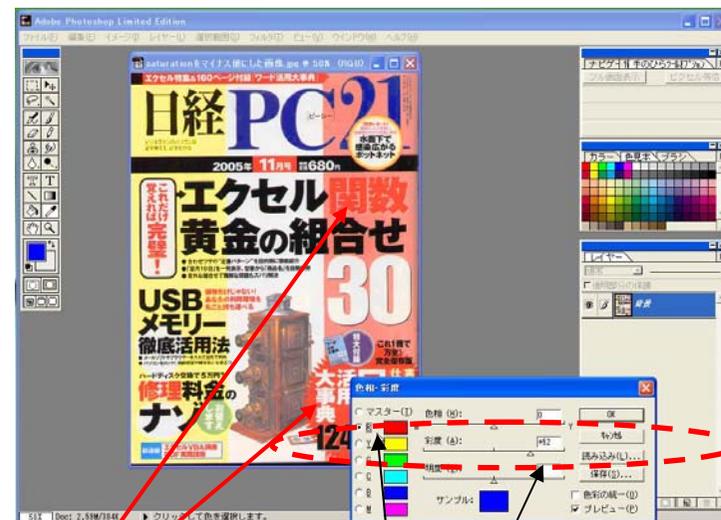
彩度を+50にしてみます。

彩度を変更したいチャンネルごとに設定を変えていきます。  
つぎは、BLUE(青色)チャンネルを変更してみます。  
だいぶん、オリジナルに近づきましたが、まだ赤色が不足気味です。



何だか、まだ赤色が不足していますね。

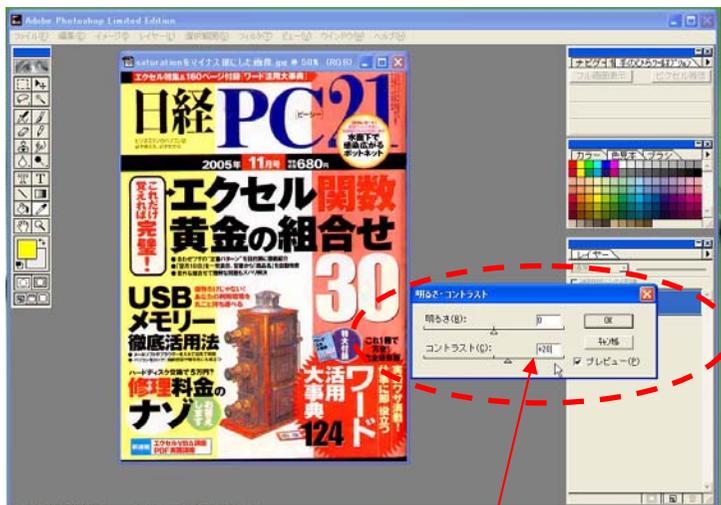
BLUEチャンネルの彩度を+25にしてみます。



かなり、イイ感じに近づきました。

もう一度、REDチャンネルのもどり、REDチャンネルの彩度を更に上げて見ましょう。+52にしてみます。

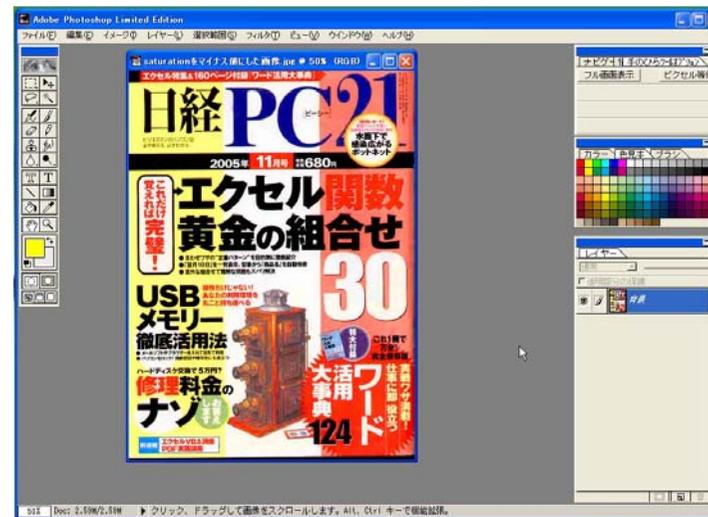
次は、コントラストを調整して、クッキリとさせて見ましょう。



コントラストを+20にしてみます。



最初の色褪せた感じで  
スキャンした画像  
です。



ココまで、オリジナルの画像に近づけることが  
できました。

スキャンした最初の画像に画質のデータが  
ある限り、レタッチソフトで修正が可能である例をお見  
せいたしました。

デジタルカメラで撮影した、映像  
です。

ここまで修正できれば、後は現  
物の原稿の色合いを見ながら  
微調整できます。



# それでは、画像を見比べて、確認して見ましょう

デジタルカメラで撮影した、雑誌の写真です。

Mustek ScanExpress A3 USBのTWAIN設定は変更しない「初期値」の状態です。スキャンした画像です。

Mustek ScanExpress A3 USBのTWAIN設定の「彩度」をわざと変更して色褪せた感じにスキャンした画像です。

左のTWAIN設定の彩度をわざと変更した画像をAdobe Photoshop LEで修正した画像です。

微調整は、加えていませんが、「赤色は赤色」、「黒色は黒色」として表現されています。実は、既にこの段階でものすごく「オリジナルの原稿の雑誌の表紙の色」に近い状態です。



カラーバランス、コントラストだけで画質を調整する場合は、ある特定の色を強調すると、画質が「その特定の色」を強調するあまり全体的に影響を受けてしまいます。  
 カラーバランスでの数値変更は、光の3原色を構成する赤、青、緑のそれぞれのカラーチャンネルの数値全体を変更することになるので、画質全体に強調したチャンネルのカラーが影響します。